



### 施設概要

- 名称 / リレーセンターみなみ
- 所在地 / 東京都町田市南町田2-6-14
- 敷地面積 / 1,459.23 m<sup>2</sup>
- 延床面積 / 2,373.74 m<sup>2</sup>
- 構造 / 鉄骨鉄筋コンクリート造  
(地上1階、地下1階)
- 処理能力 / 燃やせるごみ中継施設  
100t/日  
容器包装プラスチック圧縮梱包施設  
4.9t/5h
- 竣工 / 燃やせるごみ中継施設  
1985年2月  
容器包装プラスチック圧縮梱包施設  
2016年3月



町田市

〒194-8520 東京都町田市森野 2-2-22  
TEL : 042-722-3111 (代表)  
www.city.machida.tokyo.jp/



快適な生活環境を守ります

# リレーセンターみなみ

燃やせるごみ中継施設・容器包装プラスチック圧縮梱包施設

## Relay Center MINAMI



町田市



詳しい情報は  
町田市ホームページを  
ご覧ください。



まちだ  
Reプラチャレンジ

町田市は、ごみとして処理する量を40パーセント削減することを目標に掲げ、様々な施策を展開しています。その中の取り組みの一環として、新たなごみの資源化施設の整備を進めてきました。

2016年4月からは、町田市南部の「リレーセンターみなみ」に資源化施設を整備し、JR横浜線の南側地域において容器包装プラスチックの分別収集を行ってきました。そして2026年4月、この取り組みを町田市全域へと拡大しました。

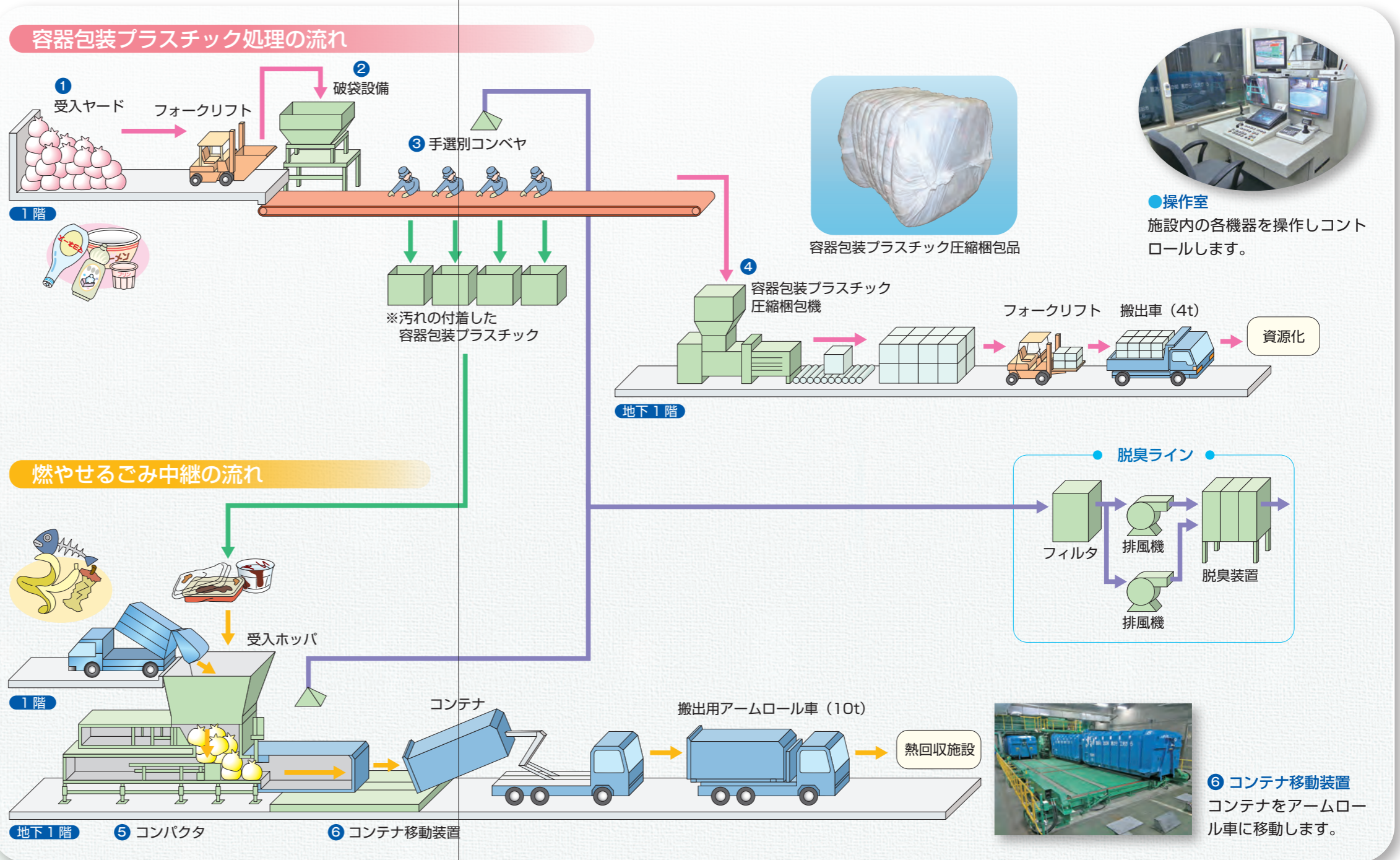
2024年度の、町田市のごみ組成調査によると、容器包装プラスチックは「燃やせるごみ」の中に約19パーセント、「燃やせないごみ」の中に約18パーセントも含まれています。これらを正しく分別することで、大幅なごみの減量が可能です。

2022年に施行された「プラスチック資源循環促進法」の背景には、海洋プラスチックごみ、化石資源の枯渇、諸外国による廃棄物の輸入規制、世界的な資源循環へのシフトがあります。持続可能型社会を築くため、プラスチックの資源化はきわめて重要な役割を担っています。

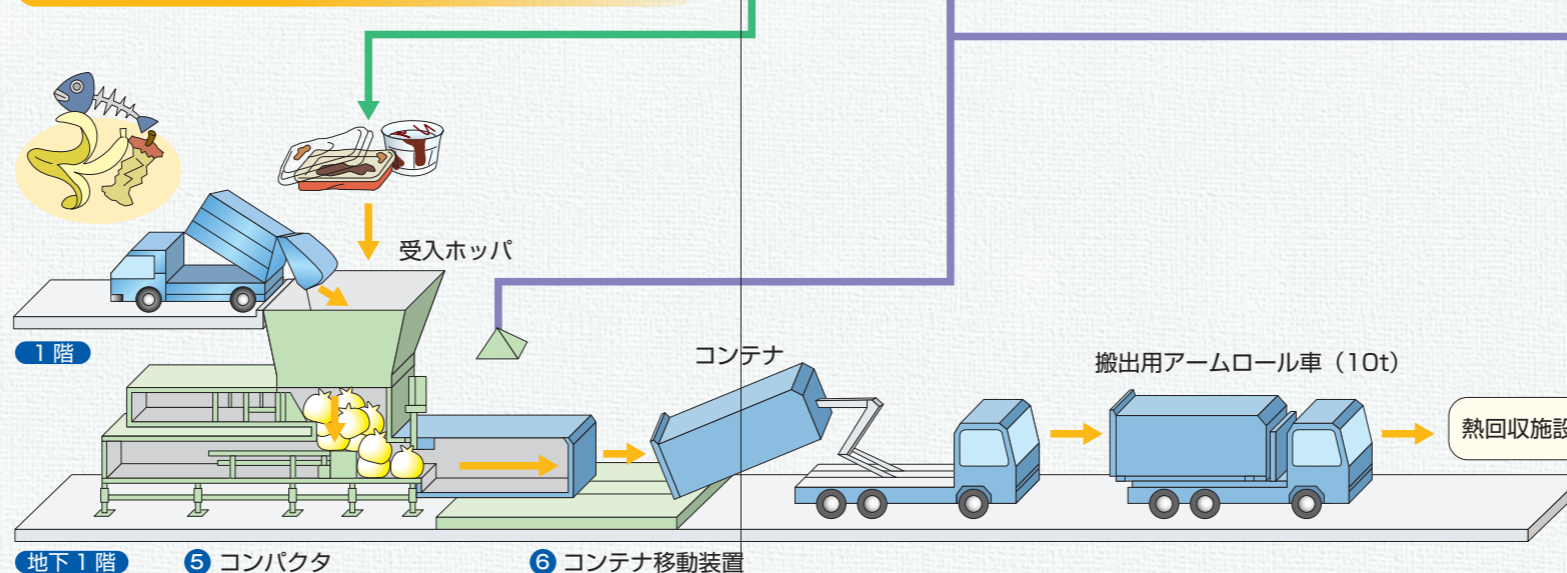
最も大切なのは、ごみそのものを減らすことです。市民の皆様の日常生活におけるひと工夫が、大きな力となります。引き続き、ごみの減量と資源化へのご協力をお願いいたします。

## 大切な資源を有効に再利用し、ごみの減量に貢献する施設——「リレーセンターみなみ」

リレーセンターみなみは「燃やせるごみ中継施設」として収集運搬の効率化に貢献してきました。従来の「燃やせるごみ中継施設」に加え2016年4月から、ごみの減量および資源化を進めるため容器包装プラスチック圧縮梱包施設が稼働しています。



### 燃やせるごみ中継の流れ



① 受入ヤード

容器包装プラスチック収集袋が搬入された容器包装プラスチックを一旦貯留します。



② 破袋設備

袋を破いて容器包装プラスチックを取り出します。



③ 手選別コンベヤ

汚れの付着した不適物や異物を人の手によって取り除いています。



④ 容器包装プラスチック圧縮梱包機

選別した容器包装プラスチックを圧縮梱包します。



⑤ コンパクト

燃やせるごみをコンテナに押し込みます。

### 全体計画

#### 燃やせるごみ中継施設

搬入された「燃やせるごみ」は、コンパクタ(圧縮機)でコンテナに積み替え、アームロール車で熱回収施設(バイオエネルギーセンター等)へ効率的に搬送します。

#### 容器包装プラスチック圧縮梱包施設

回収した「容器包装プラスチック」は、袋を破いて中身を取りだし、汚れや異物を手作業などで除去します。その後、(公益財団法人)日本容器包装リサイクル協会の「引取り品質ガイドライン」に基づき圧縮梱包します。梱包品は臭気や飛散を防ぐためフィルムで包み、樹脂バンドで固定した状態で資源化ルートへ送り出します。